

ポストコロナに向けDXが加速

デジタル施策相次ぐ 商社

繊維・ファッション業界がコロナ禍に渡れるなか、商社のデジタルトランスフォーメーション(DX)が進んでいる。生産や流通、販売など様々な局面でデジタル化が加速、各社も業界変化に対応する体制や施策を打ち出している。

サンプル不要

三菱商事ファッションは4月にデジタル事業推進本部を新設し、コロナ禍の市場変化を捉えている。アパレル製品のOEM・ODM(相手先ブランドによる設計・生産)に活用できるSD・CGスキームを提案し、多様なアパレルメーカーから注目されている。同社はCAD(コンピュータ)による設計を起点に、試作反やサンプル縫製を不要とするスキームを提案。サンプル作成プロセスの削減による大幅なコストダウンや、生産リードタイムの短縮などのメリットが評価されている。

業界ではコロナ禍のなかで「サンプル作りが難しくなっている」のでSDモデリングを活用したい。「リアル展示会が開催できないなかで、CGによるデジタルプロモーションにしたい」などの要望がある。これらの声に応えるため、業界のプロ同士がコミュニティやデザイン確認を目的に企画段階で使う「3Dモデリング」、相手先ブランドの営業ツールや展示会カタログに使う「簡易版CG」、BtoC(企業対消費者取引)向けに商品の背景や着用モデルの顔を自由に入れ替えられる「EC用CG」を開発し、用途に合わせて提供。

これらは既に20年秋冬から、有力セレクトショップや百貨店系アパレル、EC専業アパレルなどで採用されている。同社は「CGスキーム向けの3Dモデリングや生地スキミング、レンダリングなどの各工程でファッション感度の高さが要求される。当社はそのぞれのエキスパートを内製化することで他社と差別化できる」と強調する。

三井物産アイ・ファッション(MIF)が過半数出資で設立した新会社、デジタルクロージングの3Dサンプルを複製・販売する「3Dモデリスタ事業」が市場を広げている。同社は「コストの削減やリードタイムの短縮のほか、サンプルレスでサステイナブル(持続可能)な物作りに貢献する」考え、デジタルクロージングはMIFと企画会社のスタートアップ、パターン製会社のフアクトアイズが19年12月に共同で設立。デジタルクロージングは依頼者から受け取った平面のパターンデータと縫製仕様書を基に3Dサンプルのデータ作製を請け負う。データを複製

商社のDX戦略に向けた最近の施策

社名	施策
三菱商事ファッション	20年4月、デジタル事業推進本部を新設
三井物産アイ・ファッション	19年12月、過半数出資で新会社、デジタルクロージングを設立
日鉄物産	20年7月、社長直轄組織としてDX推進部を新設。繊維事業本部は同年4月にDX推進チームを立ち上げる
ヤギ	20年5月策定の中長期経営計画(最終年度23年3月期)でDXを重点施策に据える
伊藤忠商事繊維カンパニー	20年7月、繊維カンパニーに繊維デジタル戦略室を新設。繊維カンパニープレジデント直轄組織として設置

する3Dモデリスタはフアクトアイズのパターンデータが担う。「ソフトの習熟度も高いため、スムーズに3Dサンプルを作製できる」と言う。MIFは自社が開発するブランドでデジタルクロージングを活用。同社はリサイクルポリエステルを使ったオリジナルテキスタイルブランド「ワンオーシャン」の生地を、米カリフォルニア発サーフブランド「マリブシャツ」のカットソーに採用して、21年春夏から販売する。取引先へのプレゼンテーションには、デジタルクロージングの3Dモデリスタ事業を活用。MIFはマリブシャツとライセンス契約を結んでリブランディングし、日本や中国を含むアジアで販売する。

テックの力で業務を大幅に改善

「ポストコロナに向けたビジネス展開」として、デジタル化に注力する」とは、日鉄物産繊維事業本部、DX推進でデジタル化を加速する構えだ。同社は今年7月に社長直轄組織として「DX推進部」を新設。それに先駆けて繊維事業本部は4月にDX推進チームを立ち上げた。DXによって、顧客向けにSD・CGの活用やウェブ展示会の開催など企画提案に生かす構えに至った。

推進体制を整える

日鉄物産100%出資の中園法人、住和時装(江蘇省無錫市)は、21年春夏向けからSD・CGを活用したOEM・ODMの提案を開始した。住和時装は、同社のホームページに開設した「3Dショールーム」で、中級衣料を中心としたメンズ、レディースの商品企画を紹介する。メンズシャツやレディースのシャツ・ブラウスを中心にライティング、イメージワイドパントなどを3D・CGで具体的なイメージを伝えながら、取引先のオーダーに合わせた素材提案を行う。

重点施策に据える

ヤギは今年5月に策定した新中期経営計画で、DXを重点施策の一つに据えた。同社は21年春夏向けのテキスタイル商談でのDXを推進する。フアクトアイズと協業する。フアクトアイズは東京ファッションテクノロジーラボ(TFL)と協業し、生地見本・データをタブレット端末やパソコンで見せる。TFLが取り組む生地のリアルで繊細な表面感や、生地の動きのシミュレーションを実現する細かな物性データの研究に、ヤギが素材提供で協力してきた経緯から協業に至った。



ヤギは東京ファッションテクノロジーラボ(TFL)と協業し、生地見本・データをタブレット端末やパソコンで見せる

生地見本は、TFLが開発したアプリ「ファッション」を使い、3D・CGで再現した生地をタブレット端末で表示する。タブレット端末の加速でセンサーと連動しており、タブレット端末の傾きに合わせ生地見本が揺れて、落ち感や動きが伝わりやすい。これら生地の組成などの詳細な情報はパソコンで確認できる。

伊藤忠商事は7月1日付で、繊維カンパニーに繊維デジタル戦略室を新設した。繊維ビジネスにおけるECへの対応など、新たな収益基盤の構築を目指す。部門を超えてデジタル化を推進するために繊維カンパニープレジデント直轄組織として設置した。今後は同室を中心に、繊維カンパニーの営業組織やグループ会社のデジタル化を推進する構えだ。

(北川民夫)